



目次

- P1……………トピックス・探検しよう！
- P2・3……………センター紹介①
【リハビリテーション課】【3階病棟】
- P4……………おしらせ・探検しよう！の回答

カラフルとは、個性豊かな子ども達がその子らしく過ごしていくことや、時には他の色と混って新しい色をつくりあげていくことを表現しました。

センター広報誌を発行します。

開設後1年が経過し、センターの概要や支援内容についてお知らせする広報誌を発行することになりました。今後定期的に発行し、皆様に少しでもお役に立つ情報をお届けいたします。

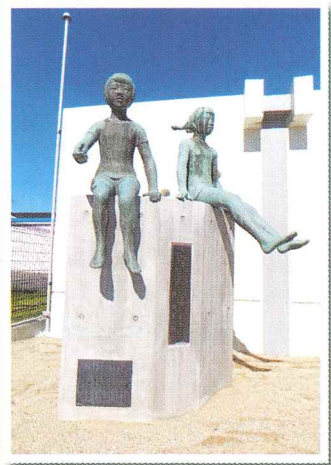
トピックス

平成30年8月2日、皇太子殿下がセンターをご視察されました。金井センター長の概要説明時には、身を乗り出されてお聞きになり、保育園などでの子どもの課題についてご質問されるなど、とても熱心なご様子でした。また、ボッチャ実演時には、緊張した子どもに対し、手を握ってお声掛けしていただくなど心配していただく場面もありました。



探検しよう!

4階建てのセンター内、普段は立ち入ることが難しい場所もあります。さて、ここはどこ？ なにをする場所でしょうか。





リハビリテーション課

■ Topics : 親子入院について

親子入院とは（親子入院案内パンフレットより抜粋）

お子さんとご家族が一緒に入院して、医師・専門スタッフとともに、お子さんとのかかわり方を学んでいただき、日常の生活に活かしていただく事を目的としています。

*入院対象児：おおむね2歳から就学前の肢体不自由のお子さんで、入院期間は1～4週間までとなります。

（例）入院中の日課

時間	日課
6:30	起床・検査
7:20	朝食
	リハビリ (PT)
9:30~11:15	保育
12:00	昼食 リハビリ (ST)
13:00~15:00	午睡／病棟リハ
15:00	おやつ
	自由時間
18:00	夕食
	入浴
21:00	消灯・就寝

利用された方からの感想

〈脳性まひ 5歳（保護者）〉

集中してリハビリにとりくめてよかった。看護師さん、セラピストの先生方やドクター、栄養士の方々、保育士さんなど、みなさん暖かく接して下さって、とてもありがたかったです。

セラピストの先生方にも外来リハよりも子どもをじっくりみてもらえるし、通院だけよりも集中して取り組めると思っています。

〈水頭症 3歳（保護者）〉

普段できない事を入院中にしてあげられました。集中してリハビリすることで成長の速さを感じました。親子でゆっくり一緒に時間を作れる事や、口から食べてくれる量が少しずつふえてきて、人見知りも少なくなってきたので、また親子入院を利用したいと思えます。

〈心疾患 1歳（保護者）〉

短い入院で、できる事がとても増えました。本人の状態に合った訓練を毎回工夫していただき、無理なくできることが増えたのに驚きました。摂食がとても進んで、自分でスプーンを拒否なく食べたり、コップで飲んでくれたので、とても嬉しいです。調理の仕方を教えていただけて、家でも実際に応用できることが、とてもありがたいです。立つ練習や座る練習なども家でもやってみます。

〈脳性まひ 1歳（保護者）〉

家でできる運動や料理を、教えてもらえて良かったです。家に帰ってからも、ごはんの時や一緒に遊んでいる時も、なるべく入院していた時と同じようにしてあげています。子どもが今よりもっとたくさんできることが増えるように、また入院してイロイロおしえてもらいたいです。



昨年度は、開院直後であったため、親子入院の試験運用でしたが、今年度からは本格的に親子入院を開始しています。今までたくさんの親子に利用していただき一定の効果とご感想をいただいております。具体的にどんな内容なのか、さらに知りたい方は、リハビリテーション課までお問い合わせください。



あすなろ3階病棟

病棟紹介

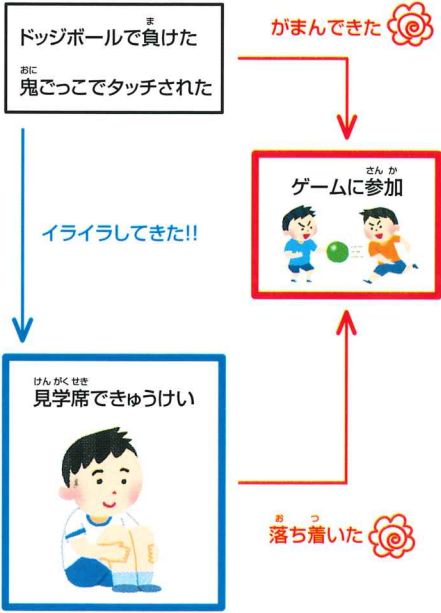
児童精神科病棟のあすなろ3階病棟では、小学生から中学生までの男女が過ごしています。職員は看護師・保育士・心理判定員・福祉技術職員等の多職種により構成されており、それぞれの専門性を活かした支援を行い、退院後の地域生活に繋がる入院治療を心掛けています。

入院中に提供している治療としては、個々に行っている薬物治療や心理治療の他に、様々な規模の集団療育活動を取り入れています。内容としては、集団あそびを通してルールを守ったり、子どもたち同士で協力し合うことのできる場面を設けたり、社会生活に必要な基本的スキルとなる対人距離やSOSの出し方等についても学ぶ機会を提供しています。

ある日の療育活動中の様子

- ① Aくんは勝敗のあるあそびで負けたり、鬼ごっこでタッチされると、イライラして物に当たったり、泣いたりしていました。
- ② そこで気持ちのコントロールが苦手なAくんに対して、あそび前の落ち着いた状態のときに、イライラしたときの対処法を本人と一緒に確認するようにしました。対処法を実践できたときには大いに褒め、実践できなかったときは職員との再確認を繰り返し行うことで、次第に自ら適切な方法で休憩をすることができるようになっていきました。
- ③ また、それがAくんの自信に繋がっていき、「イライラしたけど、ちゃんと休憩できたよ」「負けただけど我慢したよ」との言葉が聞かれるようになりました。
- ④ 子どもたちに困ったときの対処法や大切なことを伝えるときは言葉だけではなく、フローチャートを用意したり、メモに書いたりしながら提示し、目で見てわかりやすいようにしています。

(例) 気持ちを落ち着けるためのフローチャート



最後に

職員は、子どもたちを近くで見守り、1日を通して密に関わることができるので、学校生活や日常生活等の様々な場面で子どもたちの変化や成長を認め、評価していきながら、退院後の生活に自信が持てるようにしています。それと同時に、家庭や地元の学校、地域の関係機関と情報交換し、入院中に行ってきた支援を途切れさせないように引き継ぎをしています。

入院期間という限られた時間の中で、今後もより効果のある治療が展開できるよう、子どもの気持ちに耳を傾けながら日々の支援にあたっていきます。

お知らせ センター祭が開催されます！

昨年の様子

日時：平成30年10月20日(土) 10時～14時50分

場所：センター正面玄関及び駐車場

(雨天の場合、かがやき特別支援学校体育館)

昨年、移転後初めてのセンター祭は大雨の中での開催でした。

今年も入院している子ども達はセンター祭に向けて準備が始まっています。どうぞ期待！



探検しよう!

いくつわかったかな？



なかよし像

駐輪場横にあります。前あすなる学園が高茶屋病院から分離独立した時に建立したものを移転しました。「この像は悩みや障害を持つ児童が仲良く語り合いながら健全に成長する姿を表現したもので、明るい学園の未来を象徴したものです」。今後もセンターの明るい未来を見続けてくれることでしょう。



3階病棟屋上スペース

あすなる病棟3、4階に入院している子どもたちが分校へと登校する「通学路」で、向いの建物は分校3階の玄関となります。ここで夏はプールを設置して水遊びを楽しみます。植樹されている木は「あすなる」の木です。



草の実病棟 ウッドデッキ

病棟の食堂・プレイルーム・学習室横にあります。入院している子どもたちが少しでも外で過ごす機会を設けるための憩いの場所です。夏にはここで水遊びを楽しみます。



休憩室

児童精神科外来にあります。大きな音やたくさんの人、初めての場所が苦手なお子さんなどが、ゆっくり休憩できるお部屋となります。外来受診の際にお子さんが落ち着かない様子がありましたら、ご自由にお使いください。



聴力測定室

難聴児支援センターにあります。防音室になっており、幼児聴力測定装置はセンター整備と同時に新しくなりました。補聴器の調整にともなう聴力測定を行っています。

編集後記

“カラフル”第1号はいかがでしたでしょうか。皆様に伝わりやすい紙面となるよう、今後とも広報委員一同心がけていきます。

広報委員 (高木・野田・中村清・田上)

三重県立子ども心身発達医療センター

〒514-0125 三重県津市大里窪田町340番5

電話 059-253-2000(代)

FAX 059-253-2031

URL <http://www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/>

